

安佐南区民祭・農業祭出店

11/6 安佐南区民文化センター

地元行事で牛乳の消費拡大を呼びかける

第十六回安佐南区民祭・農業祭が開催され、平奈岐佐さんら地元酪農家が牛乳・乳製品の消費拡大を行うと出店した。

午前中はあいにくの雨天で客足は鈍かったが、午後からは雨も上がり、アイスクリームやヨーグルトを販売した。応援にあたった広酪職員も「STOP TPP」のトレーナーを着用し、JA職員らと一緒に「消

費者へ安全・安心な農産物生産のために農業団体はTPP参加に反対しています」と理解醸成活動にあたった。

会場には松井広島市長も訪れ、出展者を激励し、これを見た会員の平奈岐佐さんは「おいしいですよ、この『牛乳』どうぞ」と牛乳試飲を勧め積極的にPRされていた。



千代田町酪農協議会

11/5 千代田町民グラウンド

雨にも負けず「乳製品の消費拡大」を図る

千代田町酪農協議会(柿原徳則会長)は、毎年行われる千代田町地域づくり協議会が主催する「第五回千代田町まつり」へ出店し、牛乳・乳製品の消費拡大を図ろうと販売にあたった。

当日はあいにくの雨天にもかかわらず、広島市内から帰郷した方や地元の町民が集まり賑わった。会員に加え、柿原ちとみさん、河野久仁子さん、松本幹子さんは会場内を走り回り、乳製品等の販売を行い、消費拡大にあたった。



「牛の改良」と「家族経営」に感激 県内先進地視察研修

西部地域組合員連絡協議会(岡崎博昭会長は、会員ら九名が参加して檜高牧場(三次市布野町)を視察した。視察先の選定にあたっては、足腰の強い牛群改良や堆肥販売にも力を注いでおられる点に着目し、参加者らは各々の経営の参考となる点を見つけ出そうと檜高氏の説明を注意深く聞かれていた。

牛の改良面では、後継者の侑祐さんから足腰の強い牛群改良を目指した精液選定のポイントの話を伺った。また、今年七月の牛群審査でエクセレントの評価を受けた牛や、十月の広島県畜産共進会で

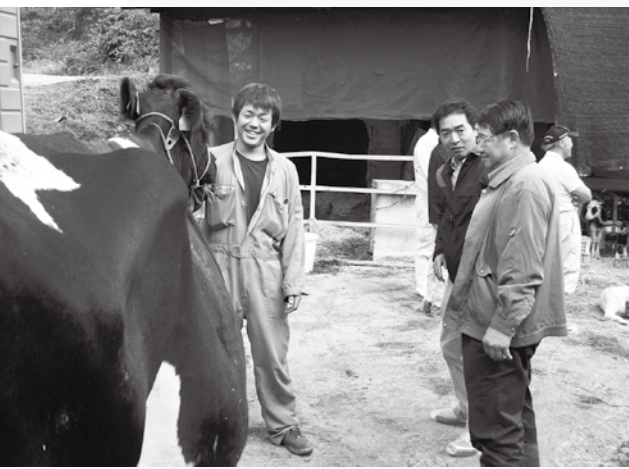
グラントチャンピオンに輝いた牛が引き出され、改良点の説明を受けた。

堆肥販売について経営主・一則氏からは、同地域では中山間地域直接支払制度での各協定で堆肥散布の助成金交付や有機米等の「こだわり米」の販売が増加傾向にあり、堆肥需要が高まっていることから、同牧場だけで五十haの堆肥散布の注文を受け、現在二十haを完了したと説明を受けた。

牛床は「戻し堆肥」を使用され、この「戻し堆肥」を発酵菌として堆肥に混合すると更に発酵が進み、冬場の外気温が低下しても良好な堆肥生産が可能との説明を受けた。

参加者らは、檜高牧場の家族経営において、親子四人がそれぞれ搾乳や子牛管理など効率良く作業を分担されていることに驚いた様子であった。

昼食では、先般開催した受精卵研修会での話題が弾み、十二月には再度、研修会を開催し、会員の渡辺和裕氏が飼養管理の体験発表を行うこととした。



(檜高侑祐さんから改良ポイントの説明を受ける会員)

昭和初期へタイムスリップ 「安芸の小京都」を満喫



西部ミルク会(東方田博子会長)は、防疫の観点から酪農視察を取りやめ、安芸の小京都「竹原市重要伝統的建造物群保存地区」を訪問した。

東方田会長は「厳しい酪農状況が続いています。が、会員一体となって頑張ろう」と挨拶。

車中では、酪農情勢の伝達や安芸の小京都の話題で盛り上がり、昭和初期にタイムスリップしたかのような感覚になり、不思議な空間を満喫した。その後は「賀茂川荘」で食事を楽しんだ。



北広島町酪農団体連絡協議会と町の意見交換会 町と酪農家が同調して畜産発展をめざす

北広島町酪農団体連絡協議会(斉藤正和会長)は、北広島町との意見交換会を開催した。

開会にあたり、斉藤会長は「意見交換会にあたって、日頃感じる酪農家の思いと、町の意見を聞き、共に畜産業の発展を模索して行きたい」と挨拶。

北広島町の佐渡産業課長からは「畜産振興の基本方針『北広島町農業振興計画』の説明を受けた。自給飼料確保にあたって輸入穀物価格の高騰が酪農経営に大きな影響を与えることから自給飼料の増産対策や、水田の機能保全を併せ持つ飼料稲の推進を行いたい。コスト低減や省力化には、広酪の牛群

検定事業を利用した個体管理によって、牛の能力向上から生乳生産の向上を図り、新規就農者支援制度に関しては、後継者育成の観点から、広島県立農業技術大学校に入学した場合の学費を同町とJA広島北部が折半で助成(旧芸北・豊平町は広島市農協のため同農協の助成は無い)。

就農一時金や就農研修に係る費用も対象とするなど、町独自の取り組みが伝えられた。

参加した酪農家から、「町はUターン・Iターンを勧める事業を実施し、人口増加が図られているが、酪農においても後継牛を育てる自家育成を行い、生産基盤の強化を図らなければならない。現状の助成に加えて、後継牛確保対策の助成措置をお願いしたい」と強く要望した。

搾乳・給餌作業の 短縮にビックリ!

あきたかた酪農振興会(榎野大樹会長)は、晴天のもと会員ら十一名が参加して、大上牧場(広島市湯来町)を視察した。

視察した会員らは、時間を要する搾乳と飼料給与の自動化による時間短縮に関心されていた。

特に乾草の自動給餌機は、大上氏が独自に開発製造にあたり、技術者の一面を目にして大変素晴らしいと絶賛されていた。また、大上氏は出来るだけコンピュータ等で省力化し「ゆとり」を持つ酪農を心がけ、余裕を持つことで、牛も人間も事故がなくなると思われた。また、堆肥販売や和牛受精卵の生産にも力を入れられ、会員は大変興味深く質問されていた。

帰路の車内では、大上牧場と酪農の話も盛り上がり、榎野会長は「ゆどりの時間を大切に明日から頑張って行こう」と研修を締めくくった。



● 甲奴郡酪農組合

11/11 鳥取県境港 「民宿小浜荘・境港おさかなセンター」

しつかり親睦、酪農経営にもメリハリが大事!



甲奴郡酪農組合(伊達薫組合長)は、組合員間の親睦を深めることを目的に、鳥取県境港の民宿小浜荘と境港おさかなセンターへの日帰り研修会を行い、会員ほか二十一名が参加した。

当日の移動中や食事の時間は、伊達組合長を筆頭に会員の軽快なトークで終始和やかな雰囲気となり、笑いの絶えない楽しいひとときとなった。

しかし、ひとたびTPPの話題が持ち上がると、参加者の顔も引き締まり、真剣な討論が繰り広げられた。

民宿「小浜荘」では地元の新鮮な海の幸を堪能し、境港おさかなセンターでは家族へのお土産も買い求められていた。和やかで笑いのある中に真剣な話題も織り交ぜながらの研修旅行は、普段のメリハリある酪農経営を察することができ、参加者らは楽しい雰囲気の中日頃の疲れを癒す有意義な研修旅行となった。

11/12 ~ 13 J A三次本所

J A三次ふるさと祭・食と農の祭典 「グリーンフェスタ2011」出展

生産者と消費者がふれあい、そして、「食」と「農」について理解を深めることを目的にJ A三次ふるさと祭が開催され、広酪も出店した。

主催するJ A三次は、平成二十三年度が合併二十周年の節目にあたり、また、来年の国際協同組合年を迎えるにあたって、県内の協同組合と連携して、来場者に第一次産業の大切さを訴えたいとの観点から、広酪は「協同組合テント村」に二日間出展した。

会場ではJ A三次各支店から野菜や米の他に、女性部による特産加工品の販売や米粉を活用した農商工連携によるパンケーキ等、五十二団体の出店があり、広酪は県内産の証「サンマーク表示」のパネル展示と共に、県産牛乳の「げんき牛乳」・ミルクファームH A R Uの「手作りアイスクリーム」や「七塚バター」、ヨーグルト・チーズなどの牛乳・乳製品の販売促進を行った。

二日目には、村上光雄組合長(J A三次)が「十一日夜、残念ながら野田首相はTPP交渉参加に向けて取り組む方針を発表したが、我々J Aは断固として反対する意志を貫きたい!」と熱く語られた。

その他、ステージでは地元神楽や子ども太鼓等、様々な行事が催され、イベント終了時には恒例の福まき(餅まき)が行われた。沢山の来場者に会場は熱気に包まれ、両日共に好天の下、二日間で約一万人もの来場者があり大いに賑わった。



みかん狩りと研修の セットプラン「日帰り研修会」

世羅郡酪農振興協議会(鈴木道弘会長)は、この時期恒例の「みかん狩り」に併せ研修会を開催し、十一名が参加した。

車中では、鈴木会長の挨拶に始まり、東部家畜診療所の市場獣医師による「アカバネ病の感染防止」、「ワクチン接種の必要性と効果」などの説明を聞き、NOSA I世羅と広酪東部事業所からは伝達事項を伝え、バスは一路因島の万田酵素の工場へ。

参加者らは、数多くの植物のチカラが凝縮した万田酵素パワーの源を工場や農園で見学し、新しい農業発展の未来を空想した様子であった。



昼食は、因島大橋の下で海を背景に上品な御料理に舌鼓を打ちながら、和気あいあいの談話で時間を過ぎ、近くの丘台にある岡野農園でみかんの摘み取り方や美味しさの秘訣を教えて頂きながら、秋晴れの空の下のどかな海を眺めた。

大変有意義な親睦交流会となった。

家族あつての酪農 水族館を楽しむ『ミルクの旅』

千代田町酪農協議会(柿原徳則会長)年々会員が減少する中で「家族も一緒に参加できる親睦旅行を行おう」との意見から、今年は夫婦や家族揃って十八名の会員らが参加した。



加者らは楽しいひと時を過ごした。

土曜日とあって多数の観光客がある中、柿原会長は「STOP T P P」トレーナーを着用。黄色のトレーナーは多くの人の目に触れ、すれ違う人から「頑張ってる下さい」との声援を受け関心を集めておられた。

このミルクの旅に、孫とひ孫を連れて参加された新谷弘知さんは「こうした機会を与えて頂き、会員の皆さんに感謝する」と述べられ、大変楽しそうに一日を過ごしておられた。参加した子供達はリニューアルした水族館で目を輝かせてはしゃぎ回り、和やかなミルクの旅となった。

山本 武組合長 栄光に輝く グラウンドゴルフ大会開催



双楽会(温泉川寛明会長)は、突風が吹くなか会員二十七名が参加して恒例のグラウンドゴルフ大会を開催した。

温泉川会長は、「日本がTPP交渉参加に向けて表明したことから、酪農情勢はますます厳しい状況に向かうことが予想される。しかし、苦しい時こそ地域の団結が必要である」と会員らを勇気付ける挨拶を述べた。

参加者らは「ワーツ、入った！おーい、わしのボール何処へ行くんじゃー！」などと和気あいあいの中、突風が吹いてゴルフポストが倒れるなどのハプニングもあり楽しい一日を過ごした。

優勝は、ハイスコアで山本武組合長が栄光をつかみ、その後の「三次ワイナリー」での表彰式と親睦会では大いに盛り上がりを見せた。

東部地域の 活性化を目指す 地元理事との 意見交換



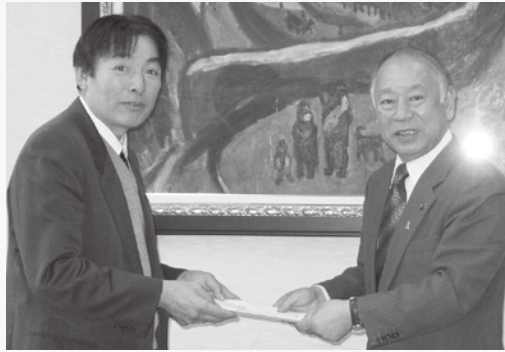
東部管内活性化推進委員11名と広酪の地元役員2名は、東部管内の行事や青年部への助成、意見交換を目的に会合の場をもった。

出席者からは、県共進会の在り方や後継者育成、新規就農に対する助成金や手続き方法、広酪に対する指導の充実や要望、雌牛の買い上げや預託事業など様々な意見を寄せられ、これを受けて、地元理事は必要に応じて理事会に持ち上げていきたいとして、充実した意見交換会となった。

三次市長・議長に要請



木村議長(左)に要望書を提出



橋本会長(左)が増田市長に要望書を提出

三次市酪農振興会(橋本洋資会長)は、茨木宏土副会長と三浦正道委員と共に、三次市長と議長を訪問し要望書を手交した。

橋本会長は「酪農を取り巻く情勢は、飼料高騰や異常気象による自給粗飼料収量低減、猛暑による生乳生産量の減少・疾病等の事故増加と大変厳しい状況にある。特に今年は、過去に例をみないアカバネ病の生後感染症による仔牛や育成牛、成牛の死亡等、酪農家の努力では收拾がつかない事象が生じた。今回、要望する中でも特にアカバネ病予防対策をいち早く講じていただきたい」と市長、議長に要望された。

増田和俊市長からは「アカバネ病予防対策に関しては、経費の三分の一を助成するよう平成二十四年度予算で対応してはどうか、平成二十五年度以降は経過を見て検討してはどうか」と前向きな検討姿勢を示して頂いた。生産基盤対策や生乳生産対策に関しては課題とされた。また、平成二十三年度地域別生産状況の推移を示し、三次市の産業部門でもコメに次いで生産金額が大きいことから「しっかり守っていかねければならない。もっと声を大にして要請すべき」と力強い言葉を頂いた。

木村春雄議長からも「全国的にアカバネ病が発生しているか情報調査を行い、状況によっては県や国に要望する必要がある。生乳生産状況をもっとPRすべきだ。一時的に措置を講ずるのではなく、継続して皆さんと一緒に頑張りたい」との言葉を受けた。

一年の無事を感じし締めくくる 会員親睦交流会開催



庄原みるくの会(大田美鈴会長)は親睦会を行った。

開会にあたり大田会長は「今年も無事に過ごすことができて良かったです」と挨拶。林美智子さんの乾杯発声で開宴となった。

会は終始和やかに笑い絶えず、次々と並べられる料理に「美味しいけどお腹がいっぱい」「食べきれない」と言いながらも、デザートが運ばれると「甘いものは別腹よね」と冗談を交わしながら、七塚バターを使用したケーキを味わった。

体を動かす仕事柄、健康に関する話題が多く、身体に気をつけて頑張りたいと互いに声を掛け合い、締めくくった。

三原と世羅地域で 初の合同勉強会開催



三原市酪農振興協議会(新舎和久会長)、世羅郡酪農振興協議会(鈴木道弘会長)は、初めての合同勉強会を開催した。

講師には、NOS I 広島三次家畜診療所の松山尚子獣医師を招き、会員十六名のほか診療所、市役所、農協担当者らが参加した。

研修内容は、「実行前に仮説を立てないと結果には辿り着けない」を視点においた、関節炎の原因・周産期疾病の原因・乾乳管理と牛の見分け方、見方のポイントなどで、実践を交えた分かりやすい説明を参加者らは熱心に聞き入っていた。

若者が集う「わきあいあい会」発足へ 親とは違った目線で…

西部地域の若者が集う会が、広酪西部事業所会議室にて開催された。

西部地域の若者が集まる語らいの場を創設したいとして、井上正芳さん(安芸高田市甲田町)が発起人となつて、酪農後継者や若手診療獣医師に呼びかけ、このほど十四名が集まった。

開会にあたり、井上さんは「広酪の会議や地域の会議等には親が出席しているが、親とは違った目線で、若い後継者らが集い、色々なことで意見交換を行う場を作りたい」と挨拶。出席者は、井上さんの意見に同調すると共に、会の名称を「わきあいあい会」として、今後、東部管内酪農青年部の規約を参考にして整備し正式発足させることをまとめた。世話人は、会長に井上正芳さん・副会長兼会計に東方田了一さん・監事には西原嘉一さんを選んだ。

次回は、忘年会を十二月十四日に開催し、会員からの意見を集約して今後の具体的活動を協議して行くこととした。

